サギタリウスチャレンジ　チャレンジ部門

結果報告書

タイトル	福井県上味見地域を盛り上げよう！
代 表 者	法学部　　末利　公一
企画概要	今回の活動では、福井県上味見地域の振興活動として、ＰＲ活動をしました。ＰＲ活動の方法として、上味見地域の特産品である赤カブラに見立て、全身真っ赤な格好に緑の帽子、そして真っ赤なリヤカー使い、上味見地域の特産品の販売を行いました。行程としては、福井と京都を結ぶ鯖街道の起点である小浜をスタートとし、福井県と滋賀県の道の駅、京都三条での販売を経て、京都産業大学までの約１００キロの道のりを、４日間かけて歩きました。
結果報告	私たちが所属していた団体、上味見青年団で赤かぶらを作り、それを販売する計画を練り、実行しました。ここでは、準備段階、活動当日の様子、その後までの工程と反省を書きます。 ［準備段階］ 現地への下見、特注のリヤカーの注文や改造、販売に伴う交渉、取材対応、特産品の確保、準備物の調達、リスクマネジメント、現地の方との連携をどうするか、当日のプランニング等　予想していた以上にやることが多かったです。 ［活動当日］ 地域特産物の販売、リヤカーでの宣伝、ビラ配布を行いました。事前に朝日新聞や京都新聞に取り上げていただいたこともあり、活動中には多くの方の声援をいただきました。そして、予定通り１００ｋｍ歩くことができ、地域特産物も完売することができました。さらに活動当日に、中日新聞、福井県民、高島ガイドに取り上げていただき、PR活動としても大変満足しております。 ［活動後］ 活動後にはKBS京都に出演させていただいたり、京都産業大学のPRポスターに起用していただいたりして、PR活動の報告も交えることができ、より多くの方に上味見地域のことを知っていただくきっかけになったと思います。 ［良かった点］ 冬であったことから服装を考え、テントも準備していたことで、雨や雪、ひょう、あられにも耐えることができました。衣装やリヤカーのデザインも良く目立ったようで、たくさんの方にお声をかけてもらうことができました。 何よりもこの企画は、多くの方の支えがあったからこそ成し遂げれたと思います。上味見地域の方々をはじめ、地元の方々、そして大学職員の方々の支えがあったことは本当に良かったと思います。 ［反省点］ 赤かぶらが不作で思うように収穫することができませんでした。初めての挑戦ということもあったのですが、この年は６０個ほどしか収穫できず、目標の２００個には遠く及びませんでした。不作の事態を想定して、農家の方から支援していただけるかの確認をあらかじめしておくべきでした。結果的に確保できたからよかったものの、できなかったことを考えると恐ろしいです。 福井と京都という距離の壁も大きく立ちふさがりました。メールでのやりとりが多く、情報の共有や、福井県での計画の実行が段取りよくいきませんでした。 忘れ物のないようにチェック表などを作るなど対策をしていたのにもかかわらず、持ち物の忘れ物が何点かあり、当日に調達するなどドタバタすることが多かったことは反

	省しています。 　雨や雪が降るリスクマネジメントもしていたのですが、していただけで、実際に悪天候に見舞われたとき、対処するのに時間がかかりました。加えてひょうが降ることなど考えが及ばす、経験不足もあり甘く見ていたなと痛感しています。メディアの反響が思いのほかあり、第一次の完売が予想していたより早かったため、３日目の午後は販売できないという結果になってしまったのが、嬉しくもあり、残念でした。
感　　想	サギタリウスチャレンジ採択以後は、激動の半年間だったように思います。実行までに半年あるので、余裕があるだろうと思っていたら、やることが多く、あっという間に時間が過ぎた感があります。 　見ず知らずの学生二人に対し、地元の地域の方や京都産業大学の OB の方に差し入れを頂いたことに驚いたり感謝したり、本当に嬉しく思いました。お金のためにとか、仕事のためにとかではない、人の温かさや、人の優しさに触れられたことに大変感動しました。これは机上だけでは体験できない一生の宝物になる経験を得ることができたと思っています。 　今回の学びは、たくさんありますが、やはり「共感される、共感させられるような」活動であることの大切さです。自分たちだけが楽しんでいるだけでは、他の人は楽しくないかもしれない。見ていてくれる人も、楽しくなるような活動を心がけたことはよかったと思います。協力してくれた方々や見守ってくれた方々に、僕たちの感謝の気持ちを表現することができていれば、この活動の二次的な成功にも、つながったのではないかと思います。 　今回のサギタリウスチャレンジで得た経験を自分たちの満足で終わるのではなく、今後、多くの人との出会い・関わりの中で生かしていきたいと思っています。